事業コード	R元-建-継-09			区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	広域河川改修事業			部局課室名	建設部 河川砂防課
事業種別	河川改修			班 名	河川・ダム・海岸班 (tel)018-860-2514
路線名等	二級河川 馬踏川			担当課長名	河川砂防課長 佐々木 寿一
箇所名	秋田市金足岩瀬			担当者名	副主幹(兼) 班長 加賀 良宏
プランとの 関連	政策コード	01	政 策 名	県土の保全と防災力強化	
	施策コード	01	施 策 名	災害に備えた強靱な県土づくり	
	指標コード	01	施策目標(指標)名	中小河川における減災対策の推進	

1. 事業の概要

事業期間	H5～R9(35年)	総事業費	42.3億円	国庫補助率	50.00	
事業規模	計画延長L=2,170m、計画高水流量Q=90m ³ /s (1/30)					
事業の立案 に至る背景	馬踏川は、秋田市と潟上市を貫流し、八郎潟に流入する二級河川である。当該区間は、河幅が狭く降雨の度に家屋の浸水や田畑の冠水が発生する水害頻発地帯で、この河川断面不足を解消するため、河川の拡幅等を進めていくものである。					
事業目的	馬踏川沿川の地域住民の生命と財産を守るため、河川断面不足の解消や線形の是正等による河川改修を実施し、浸水被害から地域住民の生命・財産を保全し、安全・安心な地域づくりを推進し、もって県土の保全と防災力を強化する。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等	
	事業費	4,230,000	4,230,000	0		
	経費	工事費	2,485,600	2,485,600	0	
		用補費	1,275,400	1,275,400	0	
	内訳	その他	469,000	469,000	0	
		国庫補助	2,115,000	2,115,000	0	
		財源	1,903,500	1,903,500	0	
	内訳	県債	1,903,500	1,903,500	0	
その他		0	0	0		
一般財源	211,500	211,500	0			
事業内容	築堤、護岸工 河道掘削 橋梁工 用地補償	築堤、護岸工 河道掘削 橋梁工 用地補償				
事業の進捗 状況	全体計画 C=42.3億円 平成30年度末投資額 C=36.7億円 進捗率 86.8%					
事業推進上 の課題	特になし					
関連する計 画等	「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」において、6つの重点戦略とあわせて推進する基本的な政策として「県土の保全と防災力強化」が位置付けられている。					
情勢の変化 及び長期継 続の理由	本河川は沿川に家屋が連担しており、これまで家屋浸水が頻発し、地元からは早期完成が望まれているが、用地や家屋の補償に時間を要している。また、河川改修に必要な予算に限りがあるなかで、記録的な豪雨により全県域で大規模な洪水被害が近年頻発し、治水対策の緊急度が高い河川が多くなっており、本工区の事業期間を延長する必要がある。					
事業効果把 握の手法及 び効果	指 標 名	河川整備率				
	指 標 式	河川改修済み延長/要改修延長				
	指 標 の 種 類	○ 成果指標	● 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無	
	目 標 値 a			データ等の出典	河川砂防課	
	実 績 値 b	46.1%		把握の時期	平成31年3月	
達成率 b/a	100.2%					

前回評価結果等	☒ 選定または継続 ☐ 改善 ☐ 見直し ☐ 保留または中止
	①指摘事項
	特になし
	②指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容（特記事項）	評 価 点
必 要 性	当該河川は、秋田市と潟上市を貫流して八郎湖に流入しており、想定される浸水面積は417haと広大で浸水戸数は246戸と多く、さらに主要地方道秋田昭和線や公民館などの公共施設も浸水する恐れがあるため、事業実施の必要性は高い。また、平成19年に馬踏川を含む河川整備計画が策定されており、本河川においては関係機関との協議も既に終えている。	28点
緊 急 性	現況河川は流下能力が著しく低く、整備目標90m ³ /sに対して22%～39%となっており、河幅が狭小であるため、出水の度に洪水被害が頻発している。また、重要水防区域に位置付けられていることから、緊急性は高い。	15点
有 効 性	当該区域は、堤防が無く河幅が狭小であることから、築堤及び河道掘削により流下断面を拡大することで、災害防止効果が発現するため有効性が高い。また、階段護岸を設置するなど親水性の向上を図っている。	15点
効 率 性	事業の費用対効果は1.47であり、効率性は高い。 また、再生骨材の使用や排水樋管の統廃合などによりコスト縮減に努めている。	13点
熱 度	平成29年7月の豪雨災害をはじめ、浸水被害が多発しており秋田市及び地元住民から河川改修への強い要望がある。また、現況の河川環境を極力維持できる河川計画としており、魚類等の生息環境に配慮しながら事業を実施することとしている。	25点
判 定	ランク（☒Ⅰ ☐Ⅱ ☐Ⅲ） 多くの項目において評価点が高く、地域住民の生命と財産を守り、また県土の保全と防災力の強化を推進する上でも有効な事業箇所であり、事業を継続すべきと考える。	96点
総合評価	☒ 継続 ☐ 改善して継続 ☐ 見直し ☐ 中止	
	事業の継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

コスト縮減に努めながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

公共事業箇所評価基準

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 河川改修事業

事業コード (R元一建一継一09)
箇所名 (二級河川 馬踏川 秋田市金足岩瀬)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	想定氾濫区域内の状況	浸水戸数	50戸以上	10	10	S60.8 N=246戸 河川整備計画より
			49～10戸	7		
			10戸未満	3		
	浸水面積		60ha以上	10	10	S60.8 A=417ha 河川整備計画より
			59～10ha	7		
			10ha未満	3		
	重要な公共施設		3施設以上	5	3	公民館 (主)秋田昭和線
			2～1施設	3		
			なし	0		
	整備計画の策定					
関係者、関係機関との調整		整備計画策定済み	5	5	馬場目圏域 河川整備計画(H19)	
		協議中であるが特段問題ない	3			
		策定に着手していないが予定がある	1			
		予定なし	0			
計			30	28		
緊急性	災害発生の危険度					
	改修目標流量に対する現況流下能力		40%未満	10	10	計画流量90m ³ /sに対し 現況流下能力20～35m ³ /s (22～39%)
			40～59%	7		
			60%以上	5		
	秋田県水防計画					
重要水防地域		評定基準区分A	5	5	区分A (R1水防計画書)	
		評定基準区分B	3			
計			15	15		
有効性	河川整備の有効性					
	安全度		災害防止等効果が発現する	7	7	
			災害防止効果は現状と変わらない	0		
	親水性		安全に川と親しむ場として利用が見込まれる	5	5	階段護岸設置
			親水性は現状と変わらない	0		
	地域開発の状況		都市計画区域の存する地域	3	3	秋田都市計画区域より
		地域開発の計画がある	1			
計			15	15		
効率性	事業の投資効果					
	費用便益比 (B/C)		1.0以上	5	5	1.47
			1.0未満	0		
	事業実施コストの縮減					
	該当項目数		3項目以上	5	3	再生骨材使用 排水樋管の統廃合
			2項目	3		
			1項目	1		
		なし	0			
当初計画との比較						
当初計画事業費からの縮減		減少または10%未満の増加	5	5	増減なし	
		10%以上30%未満の増加	3			
		30%以上の増加	0			
計			15	13		
熟度	地元との合意形成の状況					
	地域住民の事業実施の意向		意向が強く要件の同意をクリアしている	5	5	金足地区振興会より要望 H28.7
			意向が強く要件の同意を概ね得ている	3		
			意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	1		
	市町村の参画		積極的に参画し要望書等の提出がある	5	5	秋田市要望書 H30.8
			参画している	3		
			参画していない	0		
	事業の進捗状況					
	進捗率 (事業費)		8割以上完了	10	10	(H30末)36.7億円/ (計画)42.3億円 =86.8%
			5割以上完了	8		
		1割以上完了	5			
		1割未満	2			
環境との調和への配慮状況						
環境保全への配慮		システムでの環境配慮事項が3事項以上	5	5	工事影響範囲が最小になる計画 排出ガス対策型車両や機械の採用 法面等の緑化の実施等	
		システムでの環境配慮事項が1～2事項	3			
		システムでの環境配慮事項がない	0			
計			25	25		
合計			100	96		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		